

# 多摩デポ通信 第42号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2017年4月27日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

## 総会開催のご案内

〜今後の挑戦に向けて

理事長 座間直壯

十年目の大きな節目を迎えました。2008年4月に「特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩」は、図書館関係者や作家、出版界、一般市民など多くの方々の支援をいただき、多摩地域における共同保存図書館の実現に向けて、それぞれの想いを結集させ、NPO法人として産声をあげました。

この十年間に私たちは何ができたのだろうか。都立図書館における蔵書廃棄問題

から端を発し、多摩地域の各図書館の蔵書の保存を改めて見直し、都立図書館の問題は大きな問題として捉えながらも我々自身の足元を整備していく必要があることに注目してきました。

一旦蔵書としたものをできるだけ長い期間保存し、必要な利用者に届けるにはどのような仕組みや体制が必要かを考えてきました。多摩地域の多くの図書館の書庫は既に満杯状態であることは皆さんご承知のとおりですが、各自自治体の財政状況を考えると新たに書庫を設置することは大変難しい状況であるのも現実です。

ぜひ

## 多摩デポ総会と記念講演に参加を！

日時：5月21日(日) 午後2時～4時40分

会場：国分寺労政会館 第1会議室 (地階)

国分寺駅南口5分 国分寺労政会館 ☎：042-323-8515

午後2時～3時 2017年度通常総会

3時20分～4時40分 記念講演

「図書館の「捨てると残す」への期待と不安—出版産業の危機の中で / 書き手として、利用者として」

講演：永江 朗氏 (作家)

——場所を移して5時から懇親会

さて十年を振り返ると、毎年の総会の際には資料保存に関する講演会などを開催し、他に年3回以上開催した「多摩デポ講座」、そして今回で42号を数える「多摩デポ通信」を刊行し、あらゆる機会を通じ様々な視点から資料の共同保存システムを考え、提案してきました。

そんな中、一昨年から取り組んできた(株)カーリルとの共同研究が開花を迎えることができました。現状では三分咲きかもしれません、TAMALASによるラストワンツリーの検索システムは、共同保存を進めるうえで大きな第一歩を踏み出したことになると思います。

今後の進め方として、さらにISBN無し資料の同定作業をどのように行うかを大きなポイントとして考えなければなりません。機械的処理での同定作業では限界があり、可能性は見いだせても確実に同一図書と言いつ

れるまでの決定力に欠けるところがあります。今後は、この課題を解決する手段をどのように構築するかとともに、資料検索の精度を一層高いレベルに高めていく必要があります。

そこで今年度の事業計画案では、多摩デポ発足当初からの想いであった、リアルな共同保存体制の実現に向けた、新たな取り組みを行っていくことを提案しています。

第10回を迎える今年度の総会には、多くの会員のご参加を願い、これまでの成果を今後どのように発展させていくかを、事業報告や事業計画の中で皆さんと一緒に議論したいと思えます。

### 総会にお集まりください

会員の方には2017年度通常総会の議案書と招請状を同封しています。会員の方は、総会にはぜひご出席ください。出席の際は議案書を

持参されますようお願いいたします。

また、総会・懇親会の出欠票、委任状(正会員の方のみ)は5月8日までに郵送またはFAXでぜひご返送ください。総会の成立に、どうぞ協力ください。

### 永江さんの提言を聴こう

総会後の記念講演には旺盛な執筆活動を続ける永江朗(ながえあきら)さんをお招きします。

永江さんは出版産業の現状に危機を感じ鋭い発言をされてきました。そんな永江さんは、「書斎の延長としての公共図書館」を言っていた方でもあります。今の図書館の状況をどのように見ておられるか。書き手として、利用者として、図書館に何を望むか。さらに多摩デポが課題とする資料の除籍と保存の問題をどう考えるか。

図書館への期待と不安、注文について、率直に話していただきます。

図書館界にとつては事業全体の基盤である、出版の世界の現状と展望、その難しい状況について、認識を深められる貴重な機会になると思います。そして私たち多摩デポの活動に大いに参考になるお話が聴けることを期待しています。

会員以外の方も参加できますので、誘い合わせておいでください。



## 第29回多摩デポ講座 都立多摩図書館 バックヤードツアー 実施報告

3月6日(月)午後2時から3時の日程で、JR西国分寺駅近くに移転した新しい都立多摩図書館のバックヤードツアーを実施した。

関心は高く、多摩地域の現役図書館員、地域住民、他地域・他県の図書館員、国立国会図書館関係者など39名の方が参加された。

開館中の開架フロアは利用者でにぎわっていた。1階の開架部分は立川の時よりかなり広く拡張され、ゆったりとした明るい雰囲気を感じることができた。参加した方から当日聴いた声、その後多摩デポ内部で話したことをお伝えしたい。

1階の書庫には雑誌及び児童資料が既に整然と収納されていたが、2階書庫には

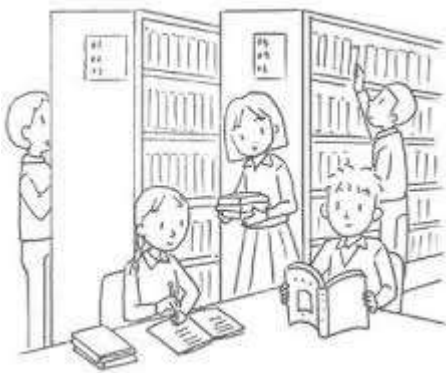
10〜15連10段という背の高い電動書架が使われていて、収蔵可能冊数の多さは実感できたが、出納や資料入れ替え作業時は大変だろうという印象であった。書庫内に作業スペースがないことも印象的だった。

児童資料コーナーが南面になるのだが奥まっついて、開架フロア内での位置取りや窓際の日照の問題などがどうなるのだろうかとなった。また多摩の市町村立図書館の館長や職員を集めての研修や図書館同士が協働していくための会議スペース等はどのように考えられているのだろうか。

新都立多摩図書館の機能としてうたっている雑誌や児童青少年資料の専門図書館の今後の機能、市町村支援の第二線図書館の役割、また地域住民の利用への対応に対するスタンスがまだはっきりは見えない、などの感想が寄せられた。

今回の見学会は事前申し込み制を取らなかったが、想定以上の参加者となり、当日受け入れていただいた都立多摩図書館にはご迷惑をおかけした。反省して今後の講座運営に生かしたい。

なお、都立多摩図書館自体が主催するバックヤードツアーはこれからも定期開催していくとのことなので、ホームページなどで日程を確かめ、予約してぜひ参加されることをお勧めしたい。



## 第28回多摩デポ講座 「国立国会図書館の蔵書デジタル化計画とまちの図書館、読書の未来」パート2

2月3日(金)に国分寺政会館で、国立国会図書館から電子情報部電子情報企画課の徳原直子氏を講師に迎えて講座を開催した。

昨年10月6日に開催し好評だった第26回多摩デポ講座のパート2として、引き続き国立国会図書館(以下、「NDL」という)の蔵書デジタル化計画をテーマとしたもので、前回からの連続参加もめ、図書館員、図書館協議委員、大学生など含め23人集まった。

前回以後の動向を反映し改訂版レジュメ(多摩デポームページで公開中)に沿って、徳原講師はNDLの内デジタル資料の収集や、料デジタル化事業の経緯今後の計画、利活用等に

ついて詳しく説明してください、事前に講師にお伝えした質問についても、話の途中で触れていただけだ。

資料のデジタル化や、その提供については、著作権関係の法律整備や、関係者との協議を行いながら進められており、当初は反発もあったが、正当にデジタル化されて利益があることであれば、徐々に理解を得られるようになってきているという。限定公開デジタル化資料に関する復刻目的の画像データ提供や、東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」で実験的に行っているテキスト全文検索とスニペット表示についての話なども興味深かった。

より大きな動きとしては、国として文化資源を自ら発信するために、「国立国会図書館サーチ」を、書籍分野に加えて文化財や放送、メディア芸術など多様な分野のコンテンツのメタデータにアクセスできる「ジャパンスー

チ」(仮称)に発展させようという計画がある、という。図書館資料は、著作権法の解釈の明確化により、すでに原本保存目的のデジタル化が可能になっているが、地域資料などでNDLが所蔵していない絶版資料を、所蔵館がデジタル化してNDLへ送れば、「図書館向け資料デジタル化送信サービス」に加わり図書館送信ができる、ということには、広範なメタデータの提供にとどまらず、デジタル化された資料自体についても、広範な利活用が進んでいく可能性が秘められている。

参加者との質疑では、どこまでデジタル化が進み、どこまで提供されているのか、年々変わるその状況や予定を定期的に周知してほしいという意見が出た。また、書籍の現物収集について、NDLの所蔵は国内全出版量の何%程度なのか、他の図書館の蔵書と重ね合わせればど

う補えるのか、それでもカバーできない出版物の存在など、国内の全出版物と全図書館の活動を俯瞰する見方の必要性のあることが語られた。講師からは、NDL未所蔵の書籍は寄贈されれば受入れるのでぜひ送ってほしいとの言葉をいただいた。NDLの事業には、今後とも注目をしていきたい。

講座に触発されて

室谷好美(会員)

「国立国会図書館のデジタルアーカイブ事業」について感想を書く機会をいただき、盛りだくさんの話題の中から何をテーマにしようか迷いました。迷いに迷った結果、一番関心が薄いのではないかと思われる「ナショナルアーカイブ」について、講演後に考えたことを書いてみます。

講演でも言及されたように、日本のナショナルアーカイブは欧州のヨーロッパアーカイブを本手としています。時実象一氏の「欧州の文化を統合する European」(カレントアウェアネス No.326 2015.12)によれば、ヨーロッパアーカイブのプロジェクトは当初 European Digital Library Network (EDLnet)と呼ばれていました。



Library の Network から始まっているのです。私はこれを読んだ際に、カーリルを連想しました。

日本の公共図書館は都道府県単位で横断検索できません。けれども自治体独自にサイトを提供しているため、それぞれに使い勝手を修得する必要があり、日本全国の図書館を検索しようとする人は（余程必然に迫られない限り）いなかっただのではないでしょう。それを気軽に、小さくすると貸出状況までも検索できるようにしたのがカーリルでした。カーリルでは、図書館がもつと楽しくなります！をコンセプトに図書館マップや読みたいリストなど資料検索以外のコンテンツも充実しています。

ナショナルアーカイブ（ヨーロッパアーナ）が目指しているものは、アーカイブ群のデジタルコンテンツを一括で検索できるポータル、つまり図書館でのカーリルのよう

なサイトだと感じました。ヨーロッパアーナでは欧州の様々な地域、分野、テーマごとに作られたアーカイブが一括で検索できます。一括検索できるのは、メタデータ（図書館で言うならば書誌）が「アグリゲータ」を通じて提供されているからです。



言語の違う国のアーカイブ、図書館と博物館など収蔵品の違うアーカイブ、映画やファッションなど新たなテーマで作られたアーカイブなど、それぞれの地域や分野の「アグリゲータ」がメタデータをヨーロッパアーナで使える形に集約しています。

今回の講演でも紹介があったように、日本のナショナルアーカイブはその構築に向け、関係者が協議を始めたばかりといえます。その中で国立国会図書館は、国の分野横断統合ポータル（ナショナルアーカイブ）となることが期待されています。国立国会図書館がナショナルアーカイブたるのであれば、司書は様々な文化資源のアーカイブ化において、「アグリゲータ」たることを求められているのではないのでしょうか。

ヨーロッパアーナでの「アグリゲータ」の役割は、メタデータの集約のみならず、参加アーカイブ機関に技術的・人

的支援を行い、コミュニティ形成や人材育成も担っています。資料を「収集し、整理し、保存して、一般公衆の用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること」（＝「図書館法」第2条「定義」から）を目的とする司書は、様々な地域、分野、テーマのアーカイブ構築にあつて、その専門性を活かすことができるのではないのでしょうか。

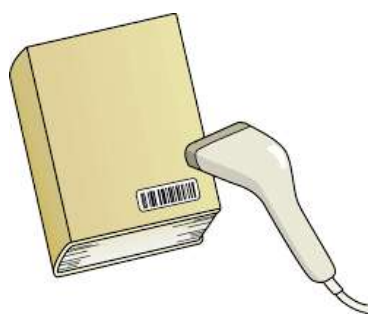
例えば、様々な分野のアーカイブの一例として「選挙のアーカイブ」を作ることを考えてみます。選挙の際に発行される選管からの所信表明広報、立候補者のポスターが貼られた看板。証紙の貼られたマニフェストチラシなど、ほとんどの資料は選挙が終わるとともに散逸してしまいます。地方の選挙結果は国政選挙の前哨戦とニュースなどでは言われますが、いっどこでどのような選挙が行われたのか、その結果はど

うだったのかを一覧できるサイトはありません。これらの選挙に関する情報がアーカイブ化され、地域の特色や立候補者の経年の変化を知ることができれば、投票行動に有効な情報になるのではないのでしょうか。仮にそう思い立って資料・情報を収集する個人もしくは組織があったとしても、アーカイブ化する際にナショナルアーカイブでの提供まで視野に入れてデータを整理する確率は、今のところかなり低いのではないのでしょうか。

今までにない視点で組織化された文化資源のアーカイブ、たとえ個人や小さな組織によって作られた小さなアーカイブであっても、ナショナルアーカイブを通じて検索されれば、利活用の可能性が格段に上がります。利活用され注目が集まることにより、アーカイブの充実も進みます。そのためにはアーカイブとナショナルアーカイブ

ブの仲を取り持つ「アグリゲーター」が必要です。

「アグリゲーター」に求められる文化資源を組織化し、コミュニティ形成に貢献することは、資料を組織化し地域社会に貢献しつづけてきた公共図書館の司書が持つ専門性に等しく、その理念は、多摩デポの資料を広域で保存することにも通じるものだと感じています。



## (株)カーリルとの共同研究 定例会報告 その10

共同研究の成果として多摩デポホームページに置いている「多摩地域公共図書館蔵書確認システム（略称TAMALAS）」は、公開しながらさらに検索精度の改善を図ってきました。まだ一部の図書館システムとの関係で不安定な時が若干あり、今後も改善に向けた取り組みを継続していきます。

同時に、現場でもっと使ってもらうため、TAMALAS活用のためのマニュアル作りに取り組んできました。その結果、3月31日に「TAMALAS活用マニュアル」をホームページに追加しました。マニュアルでは、「TAMALASの概要」「検索の対象」「検索方法」「検索結果」について説明し、TAMALASの活用促進を訴えています。

また、説明会などの場で、

TAMALASで連続的に検索して多摩地域で最後の2冊以下になったタイトルだけを抜き出して、そのリストをプリントアウトできないかという要望をいただきました。研究を進め、検索結果の一覧表示から多摩地域で最後の2自治体以下の検索結果を消し込む仕組みを考えました。4月からは、これを追加しています。

次の課題は、ISBN有り資料の大量一括検索処理です。大量の除籍候補資料がある場合に、データを一括投入して検索できる仕組みの公開の検討です。今号で西東京市図書館長からご寄稿いただいているとおり、昨年5月には同市から約7000件のISBN有り除籍候補データを預かり、4日で結果をお返しすることができています。その段階では、大量一括検索は、多摩デポに問い合わせしてもらい、提供しても



らうデータ形式を打ち合わせ、その自治体が採用している図書館システムを聞きながら対応することでした。これをどの図書館システムにも汎用的に対応できるもの、データ形式もどの自治体でも作りやすいものにし、イメージとしては現在のTAMALASのように、使いたい図書館の側から使いたい時にアクセスできる方式にできないかという研究です。

3月には国分寺市から提供いただいた蔵書データでも実験しました。データがどのような形式であれISBN付きデータを提供してもらえれば大量資料を一括で検索し結果を出せる用途はたちました。今後は、仕組みを各図書館で活用してもらう運用方法を検討する必要がありますと考えています。

そのためにも図書館現場と話合える機会がほしいです。昨年には小平市図書館で北多摩ブロックの職員の方

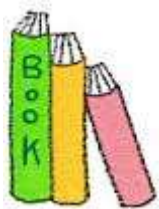
が集まれる会を持ってもらいました。さらに別の地域で、TAMALAS活用マニュアルを説明しながら、TAMALASのデモンストレーションし、質疑を受け、一括大量処理の方法について紹介したりする説明会を順次行っていきたくと考えています。

以上はISBN有り資料への対応ですが、一方ではISBN無し資料の同定についての研究を進めています。昨年度行った西東京市の大量除籍資料の検索作業では、同時に多摩デポは、1000件以上のISBN無し資料を人力で同定する作業を行い、判断結果を同市にお返ししました。公開されている各図書館の蔵書データは、各館の目録の取り方により揺れています。書名の始まりや副書名の扱い、漢字の使用、発行年、異なった版や文庫など、ISBNを使えなければ、厳密には同一出版物と見なす

べきか見なすべきでないか、個々の場合により、同定は簡単ではありません。ISBNに基づかない資料同定の研究を進めるには、西東京市の作業時に作成した判断基準をさらに整理する必要があると感じています。

この分野では、現在カリルが、京都府立図書館に協力して府立及び府内市町村図書館の蔵書データについての実証実験をしています。機械的に同定する検討も行われていますが、そこから踏み込んでいくには、いずれにしても同定の判断基準が必要です。こうしたことは最先端の図書館界の課題の一つでもあると考えています。

最終的には現物を付け合わせるのチェックがもっとも正確であり、ISBN無し資料だけを一か所に集める共同保存図書館の必要性も浮上しています。



西東京市の大量除籍資料の多摩デポカーリルーISBN検索データ活用顛末記

中川恭一  
西東京市図書館長

◇ 少し以前からの話になりますが、2015年9月26日をもって西東京市中央図書館扱い（中央図書館から嘱託員を派遣）となっていた新町分室（西東京市最南部地域の新町福祉会館・児童館に併設、面積117平米、蔵書1万4千冊。旧保谷市の施設、1977年11月開室）が廃止となりました。田無市と保谷市が2001年1月に合併して西東京市となった以後も、新町分室は6図書館に加わる分室の位置をキープしていましたが、西東京市の公共施設適正配置計画の中で総量抑制策の強調とともに、図書館施設としての蔵書の鮮度や展開できるサービスの限

界、実態は週末の予約資料受け取り利用が6割を占めるようになって、この機能を残す代替ポイントとすることで廃止することになったのです。

以後10月1日からは、予約資料5冊まで(1年後に10冊までに拡大)引き取れる新町図書サービスを開始。福祉会館玄関横で福祉施設職員・嘱託員による予約資料引き渡し、予約者自身によるセルフ貸出し、端末による資料検索、予約ができるサービスへと移行しました。

◇ 残された蔵書1万5千冊の処理をどのように行うかが、廃止決定後の西東京市図書館の最大の課題でした。

新町分室の児童書約7千冊は児童館が併設されていることもあり、比較的新しい本も蔵書としていたため、閉室後、児童館での再活用とともに市内の児童館、学童クラブ、保育園へ呼びかけ、選書

に来ていただいた各施設へ配送しました。

一般成人資料約8千冊は、文庫、新書判ノベルス、小説は他の6館所蔵資料と重複するもので占められ、ノンフィクションは市内6館でも所蔵から除外されたものが多くを占めていました。閉室前に担当者がめぼしい資料を引き抜き、閉室後は、福祉会館に約3百冊を寄贈、最終的には7千冊余り(段ボール約180箱)が除籍対象となりました。

閉室後の図書室は福祉会館のリハビリルームに衣替えすることが決まっており、引き渡し日が決まっていた関係で、閉室から3週間後の同年10月19日、除籍候補資料(児童書約5千冊、成人資料約7千冊)を中央図書館地下ピロティの外側にブルーシートをかけた平積み状態で保管しました。児童書は廃棄、一般成人資料は芝久保図書館書庫で、除籍候補資料の

最終選別作業をすることになっており、そのための仮処置でした。小学校2校にはさまれた地域にある谷戸図書館を児童サービス資料の中心館とする保存資料計画があり、芝久保図書館書庫に所蔵していた児童書、児童研究資料約3万5千点を谷戸図書館書庫に収蔵していたフィクション1万8千点と入れ替える作業が2月に控えており、半年間の待機を余儀なくされたためです。

私の感覚では、新町分室の蔵書は除架作業の積み重ねで淘汰された結果、市内図書館網の中で閉架書庫ではなく開架保存館のような存在になっていたと感じていました。

実際、予約がかかる和在庫があるのは新町分室だけで、でも、開室日(火・土曜の13~17時)の関係で回送されてくるのに日数がかかったり、新町分室だけで所蔵している資料があつたり、と。

◇ 昨年春から夏にかけて、多摩デポとカーリルに検索していた資料件数は7239件で、うちISBN有りが6220件、ISBN無しが1019件です。

ISBN有り資料のデータはCSV方式で5月にカーリルに送り、その4日後には多摩地域の所蔵情報が集計されて戻ってきました。ISBN無し資料は、7月に多摩デポで、都立図書館の統合検索を使ったボランティア検索で、同一データを複数の人で検索する所蔵調査をしてもらいました。

一方で閉室後、中央図書館地下のピロティで仮置きの間にも、利用者からは、以前には新町分室に所蔵があつたものが、今は蔵書検索しても出てこないというクレームに似た話を一度ならず聴





いていました。蔵書の全交換を行った芝久保図書館での選別作業を急ぐ必要性から、2016年5月以降、ピロテイから少しずつ1日2便ある交換便のうちの1便を使って、数箱ずつの移送を始めました。

実際の箱開け選別作業は、まとまった時間を要するため、2017年1月に芝久保図書館で3日間の蔵書点検を実施した際に、成人サービスマン職員6名が、ゆるやかなローテーションで作業分担して進めました。

事前に、小説類など複本と見比べ用に見た目がきれいなものを抜いておくことから開始し、

▼①旧新町所蔵資料を書架4面を使用し、数回に分けて並べました。その上で、カーリルから返された検索結果リストを使って、多摩地域0、1冊本を抜き出しました（多摩地域の0冊本78件、1冊本117件でした）。

▼②この①の作業で残った、多摩地域に所蔵ある資料の中から、担当が目検で保存しておくものを選び、市内の各保存館へ移送し所蔵替えをしました（多摩地域の2冊本159件）。

▼③この①の作業で抜き出した多摩地域1冊本の中から、除籍できるものとそうでないものを担当者が選別し、各保存館へ移送しました。

▼④この①から③の作業で残った除籍対象資料を除籍しています。ISBN無し資料は最終的には除籍と判断しました。

（ただしこの作業自体は、まだ未完了です）。

◇ 今回、西東京市図書館は図書館界にとっても、とても珍しい経験をしました。

担当者から聞き取りした、〈多摩デポIIカーリルの一括検索〉の使い勝手等についてですが、  
・1件1件を人の手で検索す

ることを考えるとデータファイルをソートするだけなので、単純に作業時間・行程の短縮ができた。

・こちらからカーリルに提出したデータリストの中に、資料IDや請求記号が入っていなかったため、結果のデータと実物を照らし合わせるのに手間取った。

・カーリル提出用の抽出条件を、その後の現物抜き取りなどの作業内容に合わせて最初に検討することが重要。

・検索方法の違いなのか、他所蔵無しの結果が出ていた資料でも、もう一度各々検索すると他所蔵が認められる場合があった。

・カーリルでの検索条件を知りたい。

◇ トータルに振り返ってみますと、西東京市の新町分室の廃止と、多摩地域ラスト1、2冊本の保存とをリンクできないものかと分室廃止の

方向性が出た当時から探っていました。ちょうど、多摩デポとカーリルとの共同研究が形になる頃で、渡りに舟これは絶好機だと私は手ぐすねを引いていました。

多摩デポの市町村立図書館長協議会への働きかけと前後して、前任の図書館長からも館長協議会でのカーリル検索データの活用を示唆されており、職員の手間の軽減と資料保存という二つの課題を同時に解決できる策としては、十分な効果を上げられたと感じています。この相反する課題の解決策の参考事例として活用いただければ幸いです。



あなたが多摩地域でGW  
をお過ごしなれば…

～お出かけの参考になる  
サイト～

◆「多摩の博物館に行こ  
う！」

<http://tamahaku.jp/cgi/s.cgi>

※東京都三多摩公立博物館  
協議会公式サイト。多摩の  
博物館・資料館のマップや  
展示・イベント情報が見ら  
れます。

◆「Imatexタマ」

<https://imatama.jp/>

※グッドライフ多摩が運営  
するイベント情報サイト。  
多摩地区内のイベント  
をエリアやカテゴリから  
探せ、詳細検索では日時・  
沿線・予算などからも調べ  
られます。

いろいろな大臣発言が波  
紋を広げています。最近では

「学芸員はがん」発言も衝撃  
的でした。

貴重な一点ものの実物資  
料を数多く扱う博物館では、  
とりわけ「保存」に心を配っ  
て活動をせざるをえません。  
図書館の世界で「利用の  
ための資料保存」を考え続  
け活動をしてきた私たちと  
しても、聞き流すことはでき  
ない一言です。それにしても  
博物館員はやるせないだろ  
うなあ。博物館の世界で、こ  
れからも「保存」と「利用」  
が適切に行われることを願  
っています。



「よみうりたま手箱」  
「コラム新作を同封」

『読売新聞』多摩版の「よ  
みうりたま手箱」という欄に  
図書館にまつわるコラムを  
月に一回程度書かせてもら  
っています。立川支局が編集  
する版で、多摩の地域内でも  
配布されているエリアは限  
られるようです。

会員には『多摩デポ通信』  
前号以降に掲載された分を  
同封しました。機会がありま  
したら感想などお聞かせく  
ださい。

▼2月15日

布少本保存 図書館共同  
で (堀渡)

▼3月29日

地域活動に図書館の原  
点 (堀渡)

★会の現勢

2017年4月25日

現在

●会員

(個人会員92名)

(団体会員2団体)

●賛助会員

(個人42名)

(団体1団体)

会の活動はみなさまの  
会費・ご寄付で支えられ  
ています。新年度用の振  
込用紙を同封しました。  
よろしくお願ひします。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口 二千元

(個人一口 団体五口以上)